

## 「柏市保育のあり方検討」について

### 1 「柏市保育のあり方検討」を実施する背景及び目的

#### (1) 背景

##### ア 保育需要の増加

全国的に女性の就業率が上昇しており、保育需要が高い状態で推移していますが、その一方で少子化が進行しており、今後の保育需要の予測が困難な状況です。

##### イ 人材確保難

保育需要の増加に伴い、保育園等の数も増加し、全国的に保育士等の確保が困難な状態が継続しています。

##### ウ 保育ニーズの多様化

特別な支援を要するお子さんが増えており、保育現場での業務量が増加しています。また、医療的ケアを必要とするお子さんの入園希望も増えています。

##### エ 公立保育園の老朽化

公立保育園のうち、建築後 40 年以上経過している保育園が大半であり、今後の保育需要を見据えた整備が求められています。

#### (2) 目的

これらの背景を踏まえ、本市の保育のあり方を、主に「保育の質と量の確保」の観点から検討し、方向性を定め、公立保育園と私立保育園等との役割を明確化します。その上で、今後の公立保育園のあり方を、民間活力の活用を含め検討し、公立保育園の運営及び整備の方向性を定め、第二期柏市子ども・子育て支援事業計画等の計画に反映させることを目的としています。

### 2 実施スケジュールについて

#### (1) 懇談会の実施（令和 3 年度）

学識経験者、私立保育園事業者及び子育て世代の市民等から、意見を伺いつつ検討を行い「(仮)柏市保育のあり方検討報告書」の素案を作成します。

#### (2) 「柏市子ども・子育て会議」への諮問（令和 4 年度）

附属機関である「柏市子ども・子育て会議」に諮問し、「(仮)柏市保育のあり方検討報告書」を作成します。

#### (3) 第二期柏市子ども・子育て支援事業計画等への反映（令和 5 年度以降）

「(仮)柏市保育のあり方検討報告書」の内容を、第二期柏市子ども・子育て支援事業計画等の計画に反映させ、関連する事業を実施していきます。なお、公立保育園の整備に係る事業については、附属機関である「柏市健康福祉審議会（児童健康福祉専門分科会）」へ諮問の上、実施します。

## 3 懇談会の実施状況及び主な意見

## (1) 第 1 回

開催日時	令和 3 年 7 月 1 5 日 (木) 午後 1 時から午後 3 時 2 0 分まで
場所	ラコルタ柏 (教育福祉会館) 2 階 多目的研修室 1・2
傍聴者	5 人
議題	柏市の保育に係る課題について
主な意見	<p>《人材確保・養成》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保育の質という側面からも人材確保は重要である。金銭面だけではなく、柏市で仕事をすることの意義やプラスとなるイメージを学生等を感じる取り組みが必要である。</li> <li>● 人材不足の中、多様な保育ニーズに応じていくため、保育士には複数の観点を学んでもらい、マインドを身に付けてもらったり、多職種連携を進めていく必要がある。</li> <li>● これからの人材養成はスペシャリストを育てること。公立保育園にその分野のスペシャリストがいて、私立園と連携しながらノウハウを拡げていけると、限られた人材でも保育の質の向上に寄与できるのではないか。</li> </ul> <p>《特別な支援を要する児の対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 障がいや特別な支援を必要とする子どもの入園や相談が増えている。柏市は、そのような子どもたちを支援する施設が少ない。適切な療育・保育を受けられる施設や環境整備、支援体制について早急な検討を求める。</li> <li>● 保育士の捉え方や力量によって、その園児が「気になる子」や「支援を要する子」として判別されてしまうことがある。一人ひとりの子どもの育ちや幸せのために必要な教育・保育の方法を考えていかなければならない。</li> </ul> <p>《公立保育園の再整備》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 公立保育園の整備については、保育需要が減少局面になった時に私立園の経営が立ち行かなくなることがないようにしてほしい。</li> <li>● 公立保育園と私立園のそれぞれの強みを議論し、その強みを生かして事業を行い、差別化を図っていけば、柏市の保育の形が自ずと見えてくるのではないか。</li> </ul> <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保育園等が、将来にわたって、子どもや保護者にとって心の拠り所、居場所となってほしい。</li> </ul>

## (2) 第 2 回

開催日時	令和 3 年 9 月 2 日 (木) から
形式	書面会議

議題	<p>ア 保育需要増への対応について</p> <p>イ 多様化する保育ニーズへの対応について</p>
主な意見	<p>《保育の量の確保, 整備》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍で預け渋りが起きていると聞く。コロナ禍が過ぎれば保育需要が爆発的に進み, 待機児童や入園保留者が増える恐れがある。</li> <li>● 新規の施設整備と同時に, 既存の保育所の認定こども園化を進める。認定こども園は, 保護者が就労の変化や可否に関わらず, 同じ施設を利用できることから, 保護者にも子どもにとっても負担が少ないことが期待できる。</li> <li>● 3歳未満の待機児のために, 小規模保育園と連携園をセットにしたシステムを作る。そのシステムの中には巡回相談や研修など支援体制を組み込むことで質の向上も図る。</li> <li>● 今後駅周辺の園の立地が難しくなると予想される。駅に一時預かり場を作り, 各園がバス等で連れていくシステムを構築してはどうか。</li> </ul> <p>《保育ニーズの多様化》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 医ケア児の実態を把握すること。また, 関係機関(医ケア連絡会, 医師会, 園医, 医療機関, こども発達センター等)と情報共有や連携を図り, バックアップ体制の確立を早急に目指すこと。</li> <li>● 安全性を確保しながら医療と保育が提供できるよう, 医療・保健・福祉の関係機関が連携し, 受入れを検討するための機関の設置が求められる。</li> <li>● 療育や医ケア児は, 専門知識や技術を有する職員を配置した事業を園内で実施し, そこが地域の施設を支援するセンター的役割を担うような施設整備, 仕組みづくりが急がれる。</li> <li>● 外国籍の子どもの受入れが今後も増えると予想される。支援体制の検討を。</li> </ul> <p>《人材確保》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 園への就職を諦めてしまった学生の実態や理由を把握することで, 新たな取り組みや確保につながるのではないかと。</li> <li>● 求人に対する支援や人件費にかかる運営費補助金の増額のほか, 子育て支援員や無資格者による園内での保育補助業務に対する一層の財政的支援の検討をお願いしたい。</li> </ul> <p>《子育て支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育ての仕方わからないという親がたくさんいて, 虐待件数も増えている。公の機関だけが子育て支援の役割を担うことは難しい。やり方や情報の伝え方について考えていかなければならない。</li> </ul> <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者が子どもと共に過ごす時間の大切さを軽視し, 保護者自身の時間を確保するために保育を利用する場面が見受けられる。「子どもの健やかな成長</li> </ul>

	を願う」という考え方を中心とした利用が進むよう、保護者への理解が深まる説明会や研修会の機会を設けてほしい。
--	---

## 4 今後の懇談会の開催予定

	時期	テ ー マ
第3回	令和3年10月21日	多様化する保育ニーズへの対応について② 公立保育園の施設整備方針について①
第4回	12月	公立保育園の施設整備方針について② 保育人材の確保、保育の質の向上について①
第5回	令和4年2月	保育人材の確保、保育の質の向上について② 保育需要増への対応について② 保護者向けアンケート項目について
第6回	3月	意見整理

以上